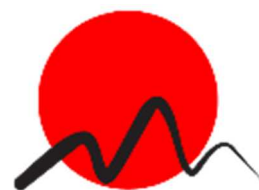


Slovenia Monthly March 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年4月7日



～3月の主なポイント～

- 内 政： エリヤヴェツ年金者党党首の辞任と離党
ヤンシャ政権発足一周年
ゾルチッチ国民議会議長等が新議会会派を設立
ゾルチッチ同議長に対する解任動議の否決
- 外 政： スロベニアにおけるメディアの自由が欧州議会の議題に
ヤンシャ首相、欧州議会の審議途中に回線を切断し途中退場
- 経 済： コペル～ディヴァチャ間第二鉄道建設計画：第1区間、第2区間の落札企業発表
- コロナ： 政府、4月1日からのロックダウンを決定

政治

【内政】

●政府によるスロベニア通信(STA)批判【9日、19日】

ヤンシャ首相は、スロベニア通信(STA)のベセリノビッチ社長に対して、退任を要求した。同首相は、ツイッターで「極左の政治的ツールであるSTAの社長が、自身の非合法の行動に責任をとって退任し、STAが正常に活動・発展するようにすべきである」とSTA社長を批判した。一方、STA側は、首相府に対してツイッターで書かれている「非合法の活動」とは何かを照会したが、返事は無い。スロベニア記者協会は、ヤンシャ首相の呼びかけはSTAの独立性に対する干渉であるとして批判した。

スロベニア政府は、STAが、同社の法的義務の履行に違反しているとして、STA監査委員会に、ベセリノビッチ社長の解任を行うよう提案した。テルチェリ監査委員会委員長は、提案を精査し、法に則って行動する旨述べた。

●エリヤヴェツ年金者党党首の辞任及び離党【10日】

10日、エリヤヴェツ年金者党(DeSUS)党首が辞任を表明した。同氏は、DeSUSはもはや自分が15年間率いた党ではないとして、党首の辞任のみならず、党自体から離党した。エリヤヴェツ氏は、2020年12月に、ピヴェツ前党首のスキャンダルによる辞任後に党首に再選されており、短期間の任期となった。ヤンシャ政権への不信任動議において同党所属議員の一部がエリヤヴェツ氏を首相とすることも含めた同動議を支持せず、同氏は党内の意思統一に問題を抱えていた。なお、エリヤヴェツ氏は、8日に通信機器を扱うIskratel社の社長補佐(国外市場拡張についてのアドバイザー)に就任していた。



(Photo: Neojisa Tejic/STA)

●ヤンシャ政権1周年【12日】

ヤンシャ首相は、政権発足1周年に当たり、発生している新型コロナウイルス第3波への対応と、連立政権として約束した主要事項の実施を誓った。また、不測の事態がなければ、2020年のGDPの減少分は2021年に取り戻すことができるだろうと述べた。総選挙の前年となる本年の政府の取り組みとしては、脱官僚システム、地方分権化、長期介護問題、パブリックセクターの支払い制度改革が挙げられるとした。



(Photo: Anze Malovrh/STA)

●スロベニアのメディア事情に関する欧州議会での議論【5日、10日、26日、29日】

5日、欧州議会においてスロベニアのメディア事情に関するセッションが実施された。同セッションにおいて、欧州議会の民主主義・法の支配・基本的価値モニタリンググループは、記者に対するハラスメント、メディアの人的・資金的不足などを含めたスロベニアのメディア事情につき懸念を表明した。一方、ヤンシャ首相及びシモニティ文化大臣は、招待が直前に送られてきたということを理由に出席しなかった。

10日、ヨウロヴァ欧州委員会・価値と透明性に関する副委員長は、欧州議会におけるハンガリー、ポーランド、スロベニアにおけるメディアの自由に関する議論において、スロベニア国営通信(STA)の持続的な資金調達と独立性を損なうような継続的試みについて指摘した。更に、スロベニアのジャーナリストに対する頻繁な口頭での攻撃は懸念材料である旨述べた。S&D(社会民主進歩同盟)、Renew(欧州刷新)及びGreen(緑グループ)の議員数名が、スロベニアのメディア、特にSTAの現状について懸念を表明した。EPP(中道右派の欧州人民党グループ)の議員はほぼスロベニアについて言及しなかったが、同グループに所属するスロベニア選出のトムツ欧州議員及びボゴビッチ同議員は、スロベニア政府がスロベニア・メディアに圧力をかけているという主張を否定した。

26日、ヤンシャ首相が、スロベニアのメディア状況を議論する欧州議会民主主義モニタリンググループ主催のオンライン会合に出席した。ヤンシャ首相は、自らがステートメントを行うかわりに、用意した(スロベニアのメディアはバイアスがかかっていると紹介する)ビデオを流すことを要求したが、同グループ議長のイン・ヘット・フェルト議員がそれを拒否したため、ヤンシャ首相は回線を切断し、オンライン議会を退場した。ヤンシャ首相は、自身が用意したビデオの上映が認められなかったことに対し、ツイッター上で「これは欧州議会側による検閲である」として、欧州議会側の対応を批判した。また、今回はシモニティ文化大臣も議論に参加予定であったが、同大臣も当初からオフラインとなっており、審議には参加しなかった。なお、メディアの自由については、25日にヤンシャ首相がフォンデアライエン欧州委員会委員長とビデオ会談した際も、同委員長から指摘があった。

29日、ヤンシャ首相は、オランダ選出のイン・ヘット・フェルト欧州議員の欧州議会民主主義モニタリンググループ長からの辞任を要求した。同首相は、イン・ヘット・フェルト議員宛の書簡において、「スロベニア政府は言論の自由及び報道の自由を真剣に捉えており、従って検閲を受け入れることはできない」と述べた。これは、欧州議会においてヤンシャ首相がビデオを流すよう要求したところ、イン・ヘット・フェルト議長が拒否したことを踏まえたものと考えられる。これに対し、イン・ヘット・フェルト議員は、欧州議会がスロベニアの敵であると印象を与えたことは残念であり、真実とは異なると述べた。

●クステツ教育大臣に対する不信任動議、否決【15日】

野党側が、新型コロナウイルス流行に際して大臣が教育分野において不適切な采配を行い、学校再開が遅れたなどとしてクステツ教育・科学・スポーツ大臣の不信任動議を提出していた件に関し、15日、議会で審議が行われ、賛成38、反対41で不信任動議は否決された。否決後、クステツ大臣は、「国民議会が自分を支持してくれたことを嬉しく思う。引き続き公正で公平な教育、科学、スポーツの実現に向けて努力していく」と述べた。

●クラリ労働・家族・社会問題・機会均等大臣に対する不信任動議否決【19日】

19日、国民議会は、クラリ労働・家族・社会問題・機会均等大臣に対する不信任動議を賛成38、反対44で否決した（可決には46票が必要だった）。同動議を提出したマリヤンシャレツリスト（LMS）、社会民主党（SD）、左派（Left）、アレンカ・ブラトウシエク同盟（SAB）の中道左派野党4党は賛成票を投じたが、連立与党、少数民族枠選出議員のほか、野党の年金者党（DeSUS）が反対票を投じた。同動議は、新型コロナウイルスの第二波において、クラリ大臣が介護施設等に関する対応を誤った等として本年1月に中道左派野党4党が提出したもの。

●ゾルチッチ国民議会議長等が新議国会派を設立【26日】

26日、与党現代中央党（SMC）のゾルチッチ国民議会議長、スルーガ院内総務、ライツ議員の大物議員3名及び先般野党の年金者党（DeSUS）を離党したレブ議員の4名が新議国会派を設立した。ゾルチッチ議長は、ポチヴァルシエクSMC党首と連立内での党の役割に関して意見の不一致があるとしてSMCとの決別は避けられないものであったと述べたほか、現在のSMCはポチヴァルシエク党首とその側近のみに率いられているとして、ポチヴァルシエク党首の党運営を批判した。なお、ゾルチッチ議長は自ら国民議会議長の座を辞することはないと示唆している。

●ゾルチッチ議長に対する解任動議の否決【30日】

30日、国民議会において、ゾルチッチ国民議会議長に対する解任動議に対する投票が行われ、賛成が45票で、可決には1票不足しており、ゾルチッチ議長が留任となった。

投票に当たって、マリヤンシャレツリスト（LMS）、左派、アレンカ・ブラトウシエク党（SAB）及び、先日SMCとDeSUSから離党した議員が立ち上げた新議国会派の議員が投票を拒否して議会の立ち去った。なお、投票のうち、2票は無効票であった。

投票後、ゾルチッチ議長は、「今回の結果がすなわち今後連立与党が議会で過半数を取ることができないという意味ではない。」と述べた。

【外政】

●中欧諸国外相会合【1日】

ロガル外相は、オーストリア、チェコ、ハンガリー、スロバキアの外相と共に中欧5か国の外相会合を実施した。今回はスロベニアがホストし、ブルドーで開催された。会合では、主にスロベニアのEU議長国就任と新型コロナウイルス対策につき意見交換が行われた。会合後、ロガル外相は「今回の会合は、スロベニアの議長国就任に係る説明と共に、EUの各種課題に対

し、中欧諸国で意見を調整する良い機会であった」と述べた。また、コロナについては、ワクチン接種の努力を継続していくこと及びEUにおけるワクチン証明書に対して支持を表明した。



(Photo: Ministry of Foreign Affairs of Slovenia HP)

●イエメンへの支援【1日】

国連などが開催したイエメン支援に係るハイレベル・プレッジング会合において、スロベニアはこれまでの支援を2割増額し、2021～23年の期間に12万ユーロをプレッジした。同支援が実施されれば、2016年以降、スロベニアは赤十字等を通じたイエメンへの支援額が50万ユーロに達する。

●パホル大統領、BHへのワクチン供与を発表【5日】

サラエボを訪問したパホル大統領は、次週にでもボスニア・ヘルツェゴビナに対して4,800回分のワクチンを供与する予定であることを発表した。ドディックBH大統領評議会議長は、友好国であるスロベニアは再びBHに連帯を表明し、支援してくれたと述べた。

●ロガル外相、アルジェリア外相と電話会談【9日】

ロガル外相は、アルジェリアのブカドゥム外相と電話会談を行った。両者は主に二国間関係につき意見交換を行い、両国の政治的対話及び経済分野での協力強化を訴える。その他、リビアやサヘル地域の動向などの地域情勢についても意見交換を行った。

●パホル大統領、モルドバ大統領とビデオ会談【15日】

パホル大統領は、モルドバのサンドゥ大統領とビデオ会談を実施した。両者は、新型コロナウイルスをはじめとした各種話題につき意見交換した。サンドゥ大統領はモルドバのEU加盟及びスロベニアを含むEU加盟国との関係促進の希望を述べた。パホル大統領はモルドバの法の支配の強化及び汚職対策への支持を表明したほか、サンドゥ大統領をスロベニアに招待したい旨の意向を伝えた。

●ロガル外相のウクライナ訪問【16日】

16日、ロガル外相はキエフを訪問し、クレバ・ウクライナ外相と、スロベニアのEU議長国について協議した。ロガル外相は、対露関係について公平な仲介を行う旨約束した。クレバ外相は、同期間中にウクライナの意見が傾聴されることを望むとした。ロガル外相は、シュミハリ首相及びラズムコフ議会議長にも表敬を行った。



(Photo: Ministry of Foreign Affairs of Slovenia HP)

●ワクチン分配に関するEUにおける協議【16日～17日】

16日、ヤンシャ首相はウィーンを訪問し、オーストリアのクルツ首相が主催したワクチン分配に関する協

議に参加した。他にブルガリアとチェコの首相が対面式で参加し、クロアチア及びラトビアの首相はオンラインで参加した。ヤンシャ首相は、協議後、EUのワクチン分配に関して、人口に比例した分配に回帰する是正メカニズムを要請した。

17日、ヤンシャ首相を含む前述6か国の首相がミシェル欧州理事会議長とビデオ会談を実施した。会談では、追加のワクチン提供及び夏までにEU内の成人の70%がワクチン接種を受けるとの目標達成について議論した。また、各国首相はEU加盟国間でのワクチン割当に差が生じていることにつき懸念を表明した。

●パホル大統領、ドイツ大統領と電話会談【17日】

パホル大統領がシュタインマイヤー独大統領と電話会談を実施した。両者は新型コロナウイルス対策につき議論し、EU各機関の尽力及びEU加盟国間の協力の重要性につき指摘したほか、ワクチン供給の遅れに対するより効果的で調整された対応を呼びかけた。その他、両者は西バルカン情勢、EU・米国関係、欧州の未来等につき意見交換を行った。

●台湾友好議連の設立の動き、一時保留に【17日】

国民議会外務委員会は、台湾友好議連の設置に向けて動いていたが、一時保留されることになった。これは、社会民主党(SD)のネメツ議員が「友好議連の設立はスロベニアが台湾を国として扱うことを意味するが、スロベニアは台湾を国として扱っていない」と指摘したことで、グレゴリッチ外務委員長(現代中央党(SMC)所属)が、台湾議連設立計画を先に進める前に調査を実施すると決定したため。なお、本件につき、ロガル外相は「スロベニア・中国関係は良好であり、台湾に対するスロベニアの姿勢に変更はない」と述べた。

●ヤンシャ首相とサルヴィーニ伊北部同盟代表との協議【18日】

17日、ヤンシャ首相はサルヴィーニ伊北部同盟代表(元副首相兼内務大臣、右派)とビデオ会談し、2国間関係に加え、移民問題、新型コロナウイルスへの対応、特に国境での対応、ヨーロッパの将来、欧州における政治状況について協議した。

●パホル大統領とスロバキア大統領とのビデオ会談【18日】

18日、パホル大統領は、チャプトヴァー・スロバキア大統領と、新型コロナウイルスへの対策、ウイルスの関連における政治・経済・社会状況について意見交換を行い、ワクチン供給について、EUレベルでの緊密な協力の重要性を強調した。

●パホル大統領とトルコ大統領との電話会談【20日】

パホル大統領がトルコのエルドアン大統領と電話会談を行った。両者は、戦略的パートナーシップ協定署名から10年を迎えた両国の関係につき意見交換を行い、この10年で経済分野での協力が加速し、政治的対話も深化したと評した。そのほか、両者はEU・トルコ関係についても意見交換を行い、パホル大統領は東地中海における問題の建設的な解決と対話の必要性につき指摘した。

●スロベニア外務省が中国の報復制裁を非難【22日、24日】

22日、ロガル外相は、中国のウイグル人弾圧に対するEUの制裁への報復として中国が導入した制裁を非難した。同外相によれば、中国はスロベニアのEU常駐代表のメンバーを含むEU関係者に対する制裁を導入しており、この行動は全く受け入れられず、EUと中国の間の将来の関係にとって良くないものであるとした。

24日、スロベニア外務省は、中国のウイグル人に対する人権侵害に対するEUの制裁に対する中国からEUへの報復制裁に関して、Wang Shunqing駐スロベニア中国大使を呼び、抗議を行った。

●ロガル外相、ルーマニア外相と会談【26日】

26日、ロガル外相は、スロベニアを訪問したアウレスク・ルーマニア外相と会談した。両者は良好な二国間関係を確認するとともに、更なる関係向上の余地がある旨で意見の一致を見た。また、会談ではスロベニアのEU議長国就任についても意見交換を行い、ロガル外相は優先課題を説明し、特に医療分野での危機管理及びサイバーセキュリティに特別な関心を払っていると述べた。一方、アウレスク外相は、スロベニアと同様に西バルカンへのEU拡大に対するルーマニアの支持を達した。

●シリアへの支援【30日】

スロベニアは、シリア・ドナー会議において、今後2年間にシリアへの人道支援として7万ユーロを約束した。ロガル外相は、同資金は、シリアにおける国連難民高等弁務官事務所の活動資金に充てられる旨述べた。更に、スロベニアはシリア市民への二国間でのプロジェクトを支援しており、これまでに600万ユーロを支出している。

●米 국무省の人権に関する報告書【31日】

米 국무省が2020年の人権に関する国際報告書を発表した。スロベニアの状況についても分析されており、メディアへの攻撃やジャーナリストへの嫌がらせについてかつてないほど目立って取り上げられており、

スロベニアの人権問題の鍵の1つであるとされている。他に、名誉棄損や誹謗中傷の犯罪化、ロマに対する差別、亡命希望者の受け入れ拒否についてのNGO報告書等が言及されている。

●北マケドニア副首相の来訪【31日】

ロガル外相は、公式訪問でスロベニアを訪れたディミトロフ北マケドニア副首相(EU担当)を迎え、スロベニアEU議長国期間の優先事項や北マケドニアのEU加盟努力等について協議した。ロガル外相は、優先事項には西バルカンも含まれるとして、北マケドニアのEU加盟努力を今後も支援していくことを約束した。

経済

●スロベニアの1人あたりGDPは、EU平均の89%【3日】

欧州統計局によると、購買力を基準(PPS:purchasing power standard)に測定された2019年のスロベニアの1人あたりGDPは、EU平均の89%であった。スロベニア西部は106%でEU平均を上回ったものの、東部は73%であった。なお、スロベニアのGDPは以前はEU平均とはより差があったものの、2014～2019年の堅調な成長により徐々に差は縮まってきている。

●米国、スロベニアのアルミニウムにダンピング防止関税を導入【3日】

スロベニアは、アルミ合金版に関し、米国が対ダンピング防止関税を導入する対象となった国のひとつである。減衰率は13.43%。キドリチェボに拠点を置くアルミ製造のタルム社は、同社は米国に輸出していないため、今回の措置で直接的な影響を受けることはないが、間接的に影響が及ぶ可能性はあると述べた。

●スロベニア、欧州投資銀行(EIB)の基金への保証をプレッジ【3日】

国民議会は、スロベニアが欧州投資銀行(EIB)の欧州保証基金(Pan European Guarantee Fund)に7千万ユーロの保証を与えることを可能とする法案を可決した。同基金は、EIBの新たなメカニズムで、ビジネス界に対して新型コロナウイルスの影響への対応を支援することを目的としたもの。同基金には、EIB資本のシェアと同等の割合でEU加盟国が保証のプレッジを行い、同基金は総額250億ユーロの保証を与えることが可能。

●コペル～ディヴァチャ間第二鉄道建設計画の進捗 【4日、10日、17日、23日、31日】

(第1区間(ディヴァチャ～チュルニ・カル間)建設について)

4日、スロベニアのコレクトルCPG社が率いるコンソーシアムは4億360万ユーロ、オーストリアのStrabag社率いるコンソーシアムは4億635万ユーロの予定価格を提示した。これら価格は税抜き価格で、両方とも上限の4億7千2百万ユーロを下回っているため有効。

10日、最低価格を提示したスロベニアのコレクトルCPG社率いるコンソーシアムが、入札の勝者となった。

31日、同建設の契約への署名が、(計画全体を担う国営企業の)2TDK社とコレクトルCPG社の間で行われ、5月に建設が開始されることになった。

(第2区間(コペル～チュルニ・カル間)について)

10日、コペル～ディヴァチャ間第二鉄道建設計画を管理運営する国営企業2TDK社は、入札に参加したのはスロベニアのコレクトルCPG社が率いるコンソーシアム1社のみであったと発表した。同区間の上限価格は2億3070万ユーロ(税抜き)と設定されており、同社は2億2475万ユーロを提示した。

17日、2TDK社は、コレクトル社を中心とするコンソーシアムが実施することを承認した。コレクトル社はすでに第一区間を受注しており、今回第2区間の受注が決定したことで、同計画の全区間の工事を行うことになった。正式な契約は3月末もしくは4月上旬に行われる予定。



(Photo: Tamino Petelinsek/STA)

Society5.0サイバーセキュリティとアーバンエモビリティに関するオンラインセミナー開催

3月18日、当館、公共行政省、スロベニア日本ビジネス協会、「AV Living Lab」社の共催の下、「Society5.0」に関するオンラインセミナーを開催しました。



セミナーの第一部では、土屋大洋・慶應義塾大学総合政策学部長をお迎えして、「日本のサイバーセキュリティへの対応」と題した講演会が行われました。また、コリトニク公共行政大臣、松島大使、パピッチ・リュブリャナ大学学長が冒頭挨拶を行いました。

第二部では、「アーバンエモビリティ」をテーマに、日本とスロベニアの学術、経済界の専門家をお招きし、プレゼンテーションとパネルディスカッションが行われました。

今回のセミナーでは第一部、第二部ともに、今後の日本・スロベニア間の協力の可能性も含めた活発な活発な意見交換・質疑応答が行われました。



このセミナーを見逃してしまった方、ご関心のある方は、共催団体の「AV Living Lab」社のホームページ上で視聴可能ですので、是非ご覧ください。

(セミナー特設ページリンク)

<https://avlivinglab.com/cyber-uam/>

●スロベン・グラデツの車部品製造工場が閉鎖【17日】

米企業アディエント社(Adient)は、スロベン・グラデツに位置する車両用シート及び内装部品の製造工場を本年末までに閉鎖することを発表した。工場閉鎖により430人が失業する見込み。アディエント社によると、車産業の不調及びスロベニアの流動性が乏しく競争力に欠ける労働市場を閉鎖の理由に挙げた。労働組合側は、閉鎖の発表は強い驚きであるとして、閉鎖に反対すると述べている。スロベニア政府は同工場への新たな投資家を探している。

●IMF、スロベニアの経済成長予測を下方修正【19日】

IMFは、2021年のスロベニアの経済成長予測をこれまでの5.2%から3.7%に下方修正した。なお、来年については4.5%と予測している。なお、IMFのアキトビー・スロベニア事務所代表は、今後のリスク要因として変異種による新たな感染の波、ワクチン接種の遅れ、国際金融市場での動揺を挙げた。

●マクロ経済分析発展研究所(IMAD)によるGDP予測【24日】

マクロ経済分析発展研究所(IMAD)はスロベニアの2021年のGDP成長率(予測)を4.6%に上方修正した。2022年は4.4%、2023年は3.3%の予測となっている。同研究所は、冬の予測では本年成長率予測を4.3%としており、修正の理由は、国際経済の見込みが上方修正されたこと、消費者が新常态に慣れてきていることが挙げられている。

●仏企業Treves社が撤退【29日】

仏の車部品メーカーのTreves社はスロベニアからの撤退を表明した。スロベニア工場の閉鎖は本年9月の予定で、102名が失業する見込み。工場は本年1月に火災を起こしており、Treves本社は、スロベニア工場は業績向上の見込みがなかなか見えず、火災後の工場復旧も行わないとした。

●TAB社の中国企業との合併事業【30日】

Večer紙は、同紙が得た情報によると、自動車用スターターバッテリーと産業用バッテリーのメーカーであるTAB社が、中国のパートナーとリチウムイオン電池の生産を開始する契約を結ぶところであると報じた。中国のHaidi Energy Technology社(海帝新能源)社との協力で、合併企業の名前はTAB-Haidi JV社となる。

●石炭廃止に向けての議論【30日】

フィナンツェ紙主催で行われた石炭廃止に向けてのラウンドテーブルにおいて、石炭の段階的廃止は避けられないが、移行する際にスロベニアの電力供給

が危険にさらされないようにする必要があるとの議論が行われた。参加者は、ベレニエで唯一操業中の炭鉱の閉鎖の年は、すべての利害関係者の合意に基づいて設定されるべきであると同意した。インフラ省のコシヨロク副大臣は、石炭の段階的廃止は避けられないと述べ、関連の戦略文書では、2033年が鉱山の閉鎖年とされている旨指摘した。

●統計局による各指標の発表【31日】

2020年のスロベニア政府の財政赤字は38.7億ユーロで、GDPの8.4%に相当する。2019年は黒字であり、同年と比べて40.7億ユーロの落ち込みとなった。累計財政赤字は2020年末の時点で374.3億ユーロとなっており、GDPの80.8%に相当する。

スロベニアの3月の消費者物価は前年同月比で0.1%増となり、非耐久消費財や電気の高価格に支えられ、7か月間続いたデフレから、微増に転じた。

スロベニアの2月の失業率は4.9%で、前年同月から0.7%増、本年1月から0.2%減となった。

新型コロナウイルス関連情報

●3月31日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

3月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計215,602名で、死者は計4,333名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している31日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	51,906
ドレンスカ・ベラクライナ地方	16,758
サヴィンスカ地方	28,575
ポドラウスカ地方	32,246
ゴレンスカ地方	22,722
ポムルスカ地方	14,152
オバルノ・クラシュカ地方	9,822
ゴリシュカ地方	10,476
コロシュカ地方	8,482
プリモルスコ・ノトランスカ地方	4,808
ポサウスカ地方	8,609
ザサウスカ地方	5,722
その他調査中	1,324

●ホイス内相、ワクチンパスポートにつき言及【15日】

ホイス内相は、ワクチンパスポートについて発言した。同大臣は、国民の大多数がワクチンにアクセス可能となるまでは、ワクチンパスポートによる国境通過

につき話すことは時期尚早であると述べた。同大臣は、多くの者がワクチンへのアクセスがない中で、特権ある者だけがワクチン接種を行い、国外に出ることができるようになるのは差別的であると述べた。

●アストラゼネカ製ワクチン接種の再開【18日】

スロベニア政府は、3月15日にアストラゼネカ製ワクチンの使用を一旦停止していたが、18日、欧州医薬品庁(EMA)がアストラゼネカ製ワクチンを「安全かつ効果的」と評価したことから、同ワクチンの接種再開を決定した。EMAの安全委員会は、同ワクチン接種が血栓を引き起こすリスクがあるかもしれないとの報告について調査を行っていたが、ワクチンと同症状が関係しているとする証拠は見つからなかったとした。

19日、パホル大統領、ヤンシャ首相、ゾルチッチ国民議会議長、コウシュツァ国民評議会議長ら政府要人は、接種が再開されたアストラゼネカ製ワクチンを接種した。接種に際し、パホル大統領は、ワクチンは正常な生活もどるために重要であると述べた。なお、政府要人のワクチン接種には特にアストラゼネカ製ワクチンの信頼度をアピールし、国民に接種を促すことも狙いであると考えられる。



(Photo: President Office HP)

●政府、4月1日からのロックダウンを決定

28日、スロベニア政府は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止等に関する現在の国内制限措置、入国制限措置等について、4月1日から11日までの間、措置を強化する旨発表した。

1. 国内制限措置

- ・一部の商品販売店舗以外の営業禁止: 営業が許可される店舗(ガソリンスタンド、薬局、食品販売店舗等)
- ・幼稚園を含む教育機関の閉鎖及びリモート学習への切替え(例外有り)
- ・公共交通機関の限定的な運営: 休日の時刻表に沿った運行、ケーブルカー等の運行禁止
- ・全国的な行政地方間の移動の原則禁止
- ・屋内外の公共の場所でのマスク着用義務及び建物内に入る時の手指消毒の義務

- ・映画館を含む文化施設(博物館、図書館等)の閉鎖
- ・家族等生計を共にする者以外との集まり・集会の禁止
- ・原則、全てのスポーツおよびトレーニングの禁止(居住地内の屋外での運動や、登録された選手の活動許可等の例外有り)
- ・レストラン・バーの閉鎖(デリバリーやテイクアウトは許可、一部地域を除く)
- ・宿泊施設の閉鎖
- ・結婚式等を含む各種イベント開催の禁止
- ・夜間(午後10時から午前5時)の移動禁止(緊急の活動等、例外有り)

2. 入国制限措置(3月29日から発効)

(1) レッド国からの入国に際して、10日間の自主隔離及び陰性証明の提示が免除される者は以下の通り。

- (ア) 国際交通分野の運転手
- (イ) 物資または人を輸送する運輸分野に従事する者(要件あり)
- (ウ) トランジット目的で、入国から6時間以内にスロベニアを出国する者
- (エ) 外交旅券保持者
- (オ) 13歳未満で、スロベニア共和国、EU、シェンゲン域内への通学のため、毎日または時折国境を越える者(当該人物が一人で移動できない場合、当該人物を輸送する者は、7日以内に発効された陰性証明(PCRもしくは簡易検査による)を提示できれば入国できるが、同人は輸送後直ちに国境を越えて出国することが求められる)

(2) レッド国からの入国に際して、7日以内に発効された陰性証明(PCRもしくは簡易検査による)を提示できれば、10日間の自主隔離を免除される者は、以下の通り。

- (ア) EUまたはシェンゲン域内で勤務する越境労働者(14時間以内に帰ることを条件)
- (イ) スロベニア共和国、EU、シェンゲン域内での教育や科学研究に関与する13歳以上の者でかつ、毎日または定期的に国境を越える者で、必要要件を証明できる者(当該人物が未成年者であるか、その他の理由により一人で移動できない場合、当該人物を輸送する者も同じ条件で入国できるが、同人は輸送後直ちに国境を越えて出国することが求められる)
- (ウ) 国境地帯または国境にまたがり私有地を有するまたは賃貸する者で、農作業や保守作業を行い、作業後すぐにスロベニアに戻る者
- (エ) 健康や生命への差し迫った危険の排除に関連する緊急の理由で国境を越える者

(3)レッド国からの入国に際し、以下のいずれかの証明書が提示できる者は、10日間の自主隔離が免除される(証明書類は、EUもしくはシェンゲン域内で発行されたもののみが有効)。

(ア)陰性証明書: 48時間以内に実施されたPCR検査による証明書

(イ)新型コロナウイルス感染症への罹患証明書: 以下のいずれか

・陽性証明書: 21日以上前かつ6ヶ月以内に発行されたPCR検査による陽性証明

・医師の診断書: 発症後6ヶ月内に発行された医師の診断書

(ウ)ワクチン接種証明書: 以下のいずれか

・ビオンテック社／ファイザー社もしくはモデルナ社のワクチンの2回目接種後、少なくとも7日間が経過していることを証明できる証明書

・アストラゼネカ社のワクチンの1回目接種後、少なくとも21日が経過していることを証明できる証明書

(4)これまで、自主隔離中に、最低5日間の自主隔離を経て、PCR または簡易抗原検査を行い、新型コロナウイルス陰性であることが証明できれば、自主隔離を終了することができたが、同要件は削除された。

3. レッドリスト掲載国・地域への出国に際する証明書等の提示

スロベニア共和国に居住する者が、レッドリストに掲載されている国・地域へ出国する際に、国境において入国時と同様の証明書等の提示を求める(一部例外あり)。

●WHOによる新型コロナウイルス起源調査に関する共同声明【31日】

スロベニア外務省は、他の12か国(日本、豪州、カナダ、チェコ、デンマーク、エストニア、イスラエル、ラトビア、リトアニア、ノルウェー、大韓民国、英国)とともに、米国が提案したWHOによる新型コロナウイルス起源調査に関する共同声明に加わり、調査の遅延に関する懸念と、起源の明確化を求めたと発表した。

治安・軍事

●政府、4つの大型防衛プロジェクトを承認【20日】

政府は、4つの大型の防衛関連プロジェクトを承認した。承認されたのは軍のコミュニケーション・情報システムの更新、リュブリャナ兵舎のオーバーホール、戦術的輸送機の購入、ベル・ヘリコプター機の更新で、これらプロジェクトの概算見積もり額合計は1億7千万ユーロとなっている。

社会・文化・スポーツ

●スロベニアの地震ハザードマップ改訂【3日】

スロベニア国立地震学局は、スロベニアの新しい地震ハザードマップを発表した。過去20年間の新たな発見に基づき、危険レベルとリスク評価が見直された。スロベニアで地震災害が最も多い地域は、東部のポサウィエ地域、南東部のノボメスト地域、首都リュブリャナ、および北西部と西部、特にコバリド、ポヴェツ、イドリヤ周辺の特定の地域とのこと。

●スロベニア女性初、国際チェス連盟の称号を獲得【10日】

チェスプレーヤーのラウラ・ウヌク氏(21歳)が、スロベニア人女性として初めて、チェス界で2番目に高名なタイトルである国際チェス連盟FIDEによって授与される国際マスタータイトルを獲得した。ウヌク氏は、9日にクロアチアのリエカで開催されたチェストーナメントMediterranean Flowersで勝利を収めた。彼女は、化学技術学科に所属する学生で、2014年にも南アフリカで開催された、ユース大会で優勝を納めており、現在は、女性グランドマスタータイトル戦に臨んでいる。

●自転車: ティレーノ-アドリアティコサイクリングレースで優勝【16日】

スロベニアのロードサイクリングスター、タデイ・ポガチャル選手(22歳)は、ティレーニア海とアドリア海の海岸を結ぶイタリア全土に及ぶレースであるティレーノ-アドリアティコで優勝した。ポガチャル選手は、13日と14日の「2つの海のレース」と呼ばれるコースで勝利の基礎を築き、2つの厳しいステージを経て、リーダーのジャージを手にした。最終的に、総合優勝者の青いジャージに加えて、最高の若いサイクリストに与えられる白ジャージとベストマウンテンクライマーに与えられる水玉ジャージも獲得した。

●スロベニアの養蜂家等、EUによる蜜蜂保護基準引下げに反対【22日】

スロベニア養蜂家協会は、ミツバチを含む花粉交配者の保護基準を下げるというEUの提案を拒否するよう政府に要請した。養蜂家等は、農業のリスク評価に関するEUのガイドラインの改訂の一環として、保護基準の引下げが発生する可能性があることを恐れている。このガイドラインは、3月末の欧州委員会の植物、動物、食品、飼料に係る常任委員会によって検討される。

コラム:スロベニアとサッカー



(Photo: Anze Malovrh/STA)

サッカーはスロベニアで最も人気のスポーツの1つです。スロベニアは残念ながら今夏の欧州サッカー選手権(EURO2020: 昨年から延期されたもの)は予選落ちしてしまいましたが、今年のU-21欧州選手権をハンガリーと共催しています。スロベニアとサッカーの関連トピックについてまとめてみました。

●UEFA(欧州サッカー連盟)会長

現在のUEFA会長はスロベニア出身のアレクサンダル・チェフェリン氏が務めています。同氏は弁護士で、国内のサッカークラブでの勤務の経験を経て2011年からスロベニア・サッカー協会会長及びUEFA副会長を務め、2016年にUEFA会長に選出されました。

●国際大会への出場歴

1991年に旧ユーゴスラビアから独立したスロベニアは、1992年に初の国際試合を経験し、2000年の欧州選手権(オランダ・ベルギー)、2002年の日韓ワールドカップ、2010年の南アワールドカップと、人口約200万人の国ながら独立以来3回の国際選手権出場を果たしています。本年3月24日には2022年カタール・ワールドカップに向けての欧州予選が始まりました。スロベニアは前回ワールドカップ準優勝のクロアチアに対して1-0と勝利し、素晴らしいスタートを切ったものの、ロシア及びキプロス相手に敗戦し、現在予選グループHの6か国中5位となっています(4月7日現在)。

●ゴールキーパーの躍進

4月7日現在、スペインとイタリアのサッカーリーグで首位を走るクラブのGKはいずれもスロベニア人です。スペインのアトレティコ・マドリッドの守護神、ヤン・オブラク選手は、セービング力、高さ、キックの正確性等全てを備えた、現時点で世界最高のゴールキーパーとも言われています。ベテランGKのサミル・ハンダノビッチ選手も、イタリアのインテルで長らく活躍し、インテルの11期ぶりの優勝に向けての戦いを支えています。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282

Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、次のメールアドレスにご連絡ください。 info@s2.mofa.go.jp

★オンライン・ジャパン・デーご視聴ありがとうございました。

プレミア公開として、オンライン・ジャパン・デーを開催しましたが、アーカイブとして、当館 YouTube チャンネルに動画を残してございます。以下の URL より、ご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCQXCvXGd_HA8jI6NJ30mviw

★令和3年度国際交流基金海外巡回展「妖怪大行進:日本の異形のものたち」開催決定!

国際交流基金の海外巡回展「妖怪大行進:日本の異形のものたち」がスロベニアにやってきます。コロナ禍で話題となった“アマビエ”もやってきます。

開催期間(予定): 4月22日(木)～6月13日(日)

会場: スロベニア民族博物館、Meterkova 3, 1000 Ljubljana

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック!

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→

<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますが、そちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページリンク】

[https://www.si.emb-](https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html)

[japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html](https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html)

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航

者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご利用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si> (主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらもご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語):

<https://twitter.com/vladars>

(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)